

群馬県

産地レポート

レタス

# JA利根沼田 (株)リーフェスト 一番難しい梅雨時期の定植で高評価

## 「ヒートガイ」を導入 (編集部)



地域概況

昭和村は群馬県のほぼ中央にある赤城山の北西麓に広がる赤城高原にあります。標高は500～800m。気温の日較差が大きく、日照時間が多いなど野菜生産に合った自然環境です。また、関越自動車道を使えば首都圏と約80分でつながること、後継者が多い地区であり、将来にわたって「首都圏の台所」として重要な産地です。

代表的な野菜はレタスをはじめ、ホウレンソウ、コマツナ、キャベツ、スイートコーンなど、またコンニャクイモの生産量は日本一です。

### (株)リーフェストのレタス栽培

苗はすべて農協の育苗センターに依頼し、200穴セルトレイで週1回2回供給されます。受け取った苗はすぐに定植することが基本ですが、苗や圃場の状態によって1〜2日置く場合もあります。定植には1条用定植機を使用。定植前の苗にはカルシウム剤やアミノ酸入り液肥、さらに近年は乾燥

が続くため保水剤を使用するなど、良苗の向上に努めています。

定植後、気温が30℃近くになる場合は、灌水を行うなどスムーズな活着を心掛けています。病害防除は週1回程度実施。連作を避けるため、ホウレンソウと組み合わせた輪作を基本とし、条件が合えば他生産者の畑と組み合わせることもあります。施肥は前作により調整します(前作がホウレンソウの場合は無施肥)。栽植密度は10a当たり7500本が基準。高温期は白黒マルチを使用し、条間は46cm程度、株間は26cm、春はグリーンマルチ使用で株間25cmとします。

### 「ヒートガイ」の導入経過と評価

昭和村では例年3月末から9月中旬まで定植しますが、梅雨明け前後に定植する作型は生育が不安定で苦労しています。昨年、7月定植から約1000株ずつを週1回、4回にわけて試験栽培したところ、近年にない乾燥の中でも形状が安定しロスが少なくなりました。そこで2024年度は従来品種と共に5月末定植から1週間当たり約1000株で試験導入されました。また、8月14日から9月12日定植では「ヒートガイ」をほぼ100%作付けされています。

2年続けて順調な生育で満足という



↑右：ヒートガイ(7/18定植)、左：他品種(7/17定植)。ヒートガイの形状は芯が短く安定し、玉の詰まりもちょうどよい。

←(株)リーフェスト代表取締役金井秀和さん。今年度からヒートガイを導入。



←(株)リーフェストのレタス出荷風景。昭和村のレタスはみずみずしさを食卓へ届けるため、すべて朝どり出荷。夜明け前3時すぎから収穫を始め、圃場で箱詰め、トラックで農協の出荷場へピストン輸送。コンテナとダンボール詰め共に12玉/10kgで出荷する。



↑クレープ屋「ラクチュカ」を道の駅めぐりむ昭和内で7年前から経営。その日に取れたレタスを使用したクレープが人気で、休日には行列になることも!



↑金井秀和さんと父の利司さん。秀和さんは約15年前に帰農、利司さんから経営をまかされ2014年に会社組織をスタート。現在はレタス(約25ha以上)とホウレンソウ(約20ha)を中心に栽培。

金井さんは、①形状が安定しロスが少ない、②外葉数がちょうどよく加工、青果用ともに調製しやすい、③従来品種と同等の日数で仕上がりが互換性が高い、④軟腐病や緑芯症が見られない、⑤ゲリラ豪雨にあっても葉が破れにくい、といった点を評価されました。また、根腐病全般に加えて黒根病に強いことも導入の要因となったそうです。「毎年気候が変わるので、梅雨明け後に定植するレタスは従来品種との2本立てかな」と最も厳しい作型はリスク分散を狙います。近年の不順な天候の中で、「ヒートガイ」が安定生産の一翼を担うことができれば幸いです。